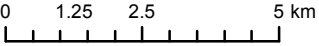
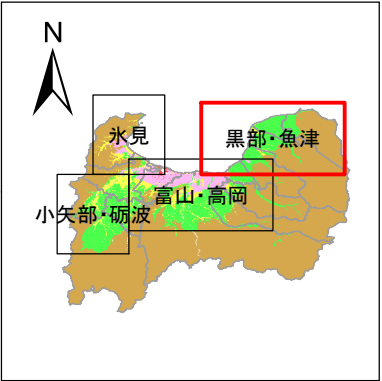
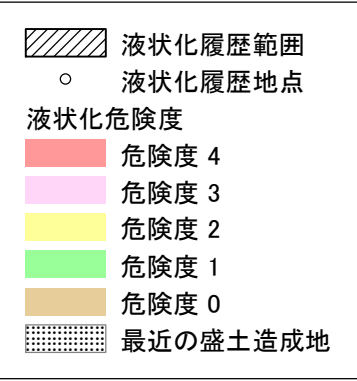


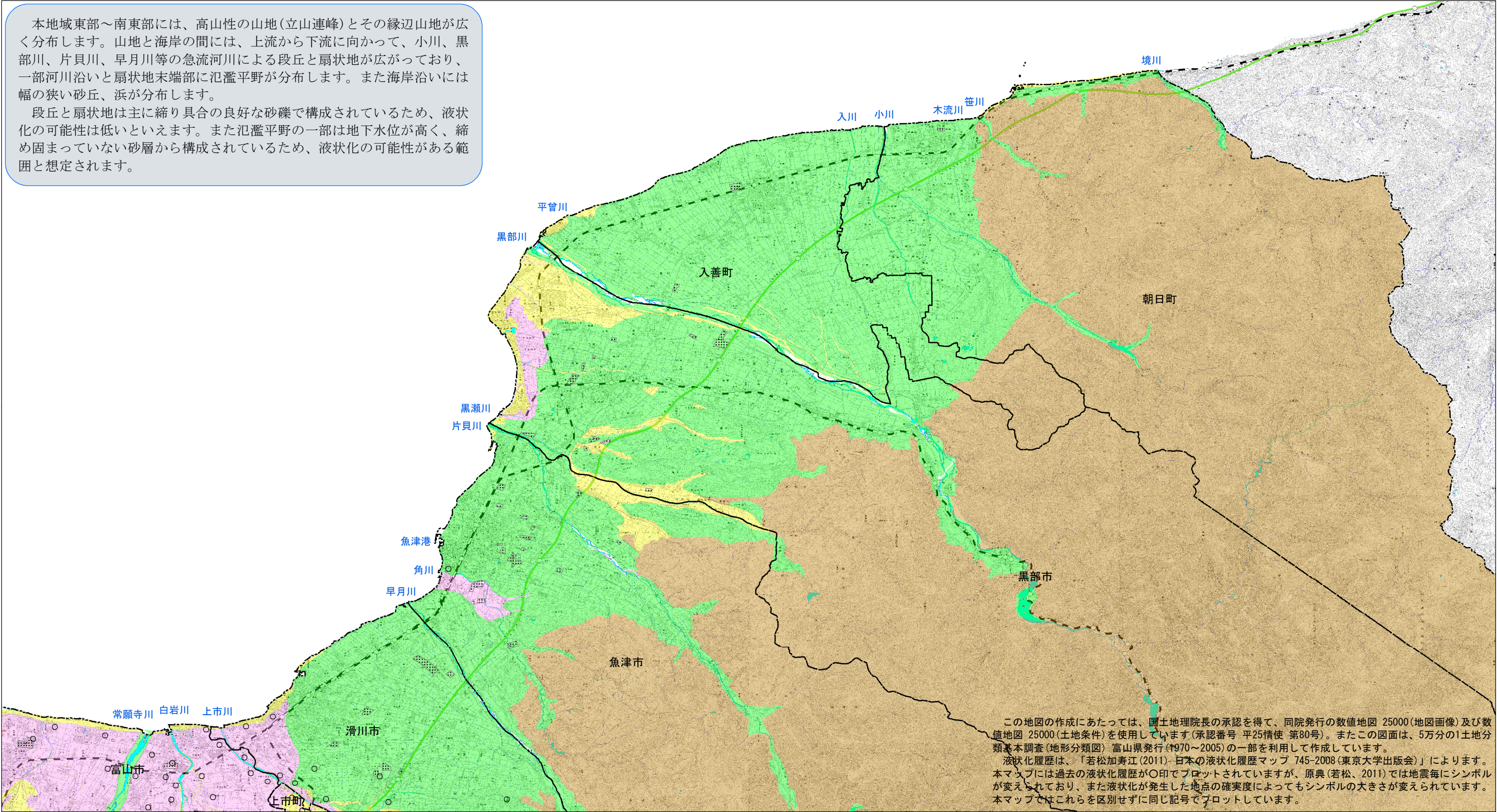
黒部・魚津地域

液状化しやすさマップ



本地域東部～南東部には、高山性の山地(立山連峰)とその縁辺山地が広く分布します。山地と海岸の間には、上流から下流に向かって、小川、黒部川、片貝川、早月川等の急流河川による段丘と扇状地が広がっており、一部河川沿いと扇状地末端部に氾濫平野が分布します。また海岸沿いには幅の狭い砂丘、浜が分布します。

段丘と扇状地は主に締め具合の良い砂礫で構成されているため、液状化の可能性は低いといえます。また氾濫平野の一部は地下水位が高く、締め固まっていない砂層から構成されているため、液状化の可能性のある範囲と想定されます。



この地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 25000(地図画像)及び数値地図 25000(土地条件)を使用しています(承認番号 平25情使 第80号)。またこの図面は、5万分の1土地分類基本調査(地形分類図) 富山県発行(1970～2005)の一部を利用して作成しています。

液状化履歴は、「若松加寿江(2011) 日本の液状化履歴マップ 745-2008(東京大学出版会)」によります。本マップには過去の液状化履歴が○印でプロットされていますが、原典(若松、2011)では地震毎にシンボルが変えられており、また液状化が発生した地点の確実度によってもシンボルの大きさが変えられています。本マップではこれらを区別せずに同じ記号でプロットしています。